

台風第 10 号の接近に伴う農作物の技術対策情報

I 台風 10 号に関する気象状況について

大型で非常に強い台風第 10 号は、30 日にかけて北日本から関東地方に接近し、上陸するおそれがあります。宮城県では海上を中心に猛烈な風が吹き、局所的に非常に激しい雨が降り、大雨となることが見込まれています（平成 28 年 台風第 10 号に関する宮城県気象情報第 3 号）。今後の台風の接近に伴い、強風及び大雨による農作物への影響が懸念されますので、注意願います。

II 農作物等の技術対策

○ 共通事項

- 1) 人命第一の観点から、ほ場の見回り等については、気象情報を十分に確認し、大雨や強風が治まるまでは行わないこと。また、大雨等が治まった後の見回りにおいても、増水した水路その他の危険な場所には近づかず、足下等、ほ場周辺の安全に十分注意し、転落、滑落事故に遭わないよう慎重に行う。
- 2) 強風に備え、資材等の飛散による被害防止に努める。
- 3) 大雨に備え、排水路の整備や排水機場の稼働体制を整える。
- 4) 浸冠水したほ場では、明きょや排水溝へ排水されているか確認するとともに、排水口や側溝のゴミや泥の除去を行い排水を促す。
- 5) 浸水、冠水の被害を受けた農作業機械や設備等は、販売店等に依頼して動作確認を行う。
(水抜きができていない状態でエンジンを始動したり、電源を入れたりすると、重大な故障や事故に繋がるので注意する。)

1 水稲

- 1) この時期の冠水は、登熟歩合が低下し減収するので（表-1）、冠水した場合は、早期排水に努める。
- 2) 雨の伴わない強風やフェーン現象の場合には稲体からの蒸散量が増大し、穂・籾への影響や葉先枯れの多発が予想される。これら被害を最小限にとどめるため、浸冠水の恐れがない場合は、水深 5～7 cm 程度の湛水管理に努める。

表 1 冠水日数と減収歩合(農業災害ハンドブックより)

被害時の生育段階	冠水日数		
	1 日	3 日	5 日
出穂期後 30 日	15%	40%	50%

2 大豆

- 1) 大雨に備え、排水溝や暗きょ等の点検整備を行い、排水に努める。
- 2) 浸冠水した場合は、早期の排水に努める。

表2 若莢期、成莢期における冠水被害割合

被害時期		冠水日数					
		0. 5日	1. 0日	1. 5日	2. 0日	2. 5日	3. 0日
被害割合	若莢期 (開花後15日)	5%	15%	25%	40%	50%	65%
	成莢期 (開花後30日)	15%	30%	45%	60%	75%	90%

3 果樹

- 1) 防風施設が設置されている園地では、早急に防風網を張る。
- 2) りんごの普通樹は、主幹、主枝、亜主枝に支柱をし、倒伏や枝裂けを防ぐ。
- 3) わい性台樹や若木は、トレリスまたは支柱にしっかり固定し、倒伏、樹体の折損、落果を防止する。
- 4) ナシやブドウの棚を点検し、不具合箇所は修繕する。新梢や側枝の誘引状況も確認し、不足している場合には、早急に誘引する。
- 5) 排水不良園では、明きよの掘削を行い、園地から排水対策を行う。
- 6) 収穫期近くの果実は強風が予想されるときには、早めに収穫する。
- 7) 浸水等により、枝葉に付着したごみや泥は、清水をかけるなどして取り除き、病害の伝染源になるのを防ぐ。
- 8) 枝葉や果実の損傷が著しい場合には、殺菌剤を散布する。
- 9) 有袋栽培では袋が飛ばされたり破損した場合は、殺菌剤散布後、なるべく早く、再被袋する。
- 10) 土砂の堆積が多い場合には、幹を中心に直径2m程度取り除き、土が乾いたら耕耘する。
- 11) 倒木があった場合には根が乾かないうちに速やかに起こし、支柱で支える。枝が裂けた場合には裂開部を縄やかすがいなどで接着する。枝葉の損傷が著しい場合には、切り落とし、塗布材を塗る。
- 12) 施設果樹については、被覆材等破損したものは直ちに補修し、施設内の装置等もよく点検して修理する。また、浸水した場合は、早急に排水を図る。

4 露地野菜

- 1) 湿害や冠水害を受けやすい畑地は事前に排水溝を点検整備し、場合によっては排水ポンプを準備しておく。
- 2) 夏秋きゅうり、トマト、なすなどの支柱を補強しておく。
- 3) 浸水した場合は、速やかに排水を図る。冠水した場合は、茎葉に付着した泥土が乾かないうちに動噴等を利用して、清水で洗い流す。
- 4) 風で茎葉が被害を受けた場合も、完全に折損したもの以外は回復するものもあるので、応急的に殺菌剤を散布する。
- 5) 果菜類等が倒伏した場合は、直ちに誘引や支柱の立て直しを行う。株の負担を軽くするため、大果にしないで収穫するか、摘果する。
- 6) 回復が見込まれない場合は、速やかに播き直しや他品目を導入する。

5 露地花き

- 1) 湿害や冠水害を受けやすい畑地は事前に排水溝を点検整備し、場合によっては排水ポンプを準備しておく。
- 2) きくやその他切り花類は、支柱やフラワーネットを補強する。
- 3) 倒伏した場合は、短時間で茎が曲がり商品価値が無くなるので、直ちに支柱を立て直す。

- 4) 浸水した場合は、速やかに排水を図る。冠水した場合は、茎葉に付着した泥土が乾かないうちに動噴等を利用して、清水で洗い流す。
- 5) 風で茎葉が被害を受けた場合など、各種病害が発生しやすいので、応急的に殺菌剤を散布する。
- 6) 回復の見込みのない場合は、速やかに他の品目等に切り替える。

6 施設野菜・花き

- 1) 周囲の明渠を点検整備し、施設内への雨水の侵入を防止する。
- 2) 被覆フィルムが弛緩していると、強風にあおられ被害が生じやすいので、取り付け金具の緊張、押さえひもの固定、両妻面の補強、防風ネットの被覆等を再点検・整備する。筋かい、補強支柱等の臨時的補強材を準備し、強風警報発令時など風が強くなったら、直ちに取り付ける。
- 3) 大型施設は、天窗や換気用のハウスサイドが強風にあおられて破損しないよう点検整備し、場合によっては押さえマイカー線で固定する。
- 4) ハウスを長時間、完全に密閉状態にすると病害の発生を招くので、風の状態（強さ、向き）に注意して風下側など少量でも換気するように努め、完全密閉は風が特に強い時間帯など極力短時間にする。さらに、台風通過後は、できるだけ速やかに殺菌剤を散布し、病害の発生を予防する。
- 5) 強風により木片等が飛来して被覆材を損傷しないよう、施設周辺を片づける。
- 6) 被覆材等破損したものは直ちに補修し、施設内の装置等もよく点検して修理する。
- 7) 浸水した場合は、早期の排水に努める。
- 8) 台風通過後は、高温で日射しが強い天気となることが多い。このような場合、作物が急激に萎れて、葉焼け等の障害を起こすことがあるので、必要に応じて遮光や換気により気温や葉温の低下を図る。
- 9) 施設に換気扇を設置している場合、強風の時間帯は施設を密閉し、換気扇を回し施設内を負圧とし強風にあおられないようにする。

7 飼料作物

- 1) 雨水が停滞しやすいほ場では、排水溝を整備して排水に努める。
- 2) 浸冠水した場合は、早期の排水に努める。
- 3) 浸水・冠水した牧草は、排水後ほ場の回復を待ち、できるだけ早く刈り取り、土砂等の汚れがないものは飼料として利用する。
- 4) 浸水草地は雑草が侵入しやすいため、刈取り高さを10 cm以上とし、収穫後速やかに追肥して草勢の回復を図る。
- 5) 浸水した飼料用トウモロコシを刈り取る際は、高い位置で刈り取り、土の混入をできるだけ防ぐ。また、サイレージの品質向上を図るため、乳酸菌等の添加により発酵を促す。
- 6) 倒伏や土砂等の汚れがついた飼料イネは品質が低下するので、土砂の混入を避けるため高刈りとし、乳酸菌等の添加により発酵を促す。

8 家畜

- 1) 天候回復後、畜舎内及び周辺の排水と流入した土砂の除去を行う。
- 2) 畜舎等の破損、汚染状況を確認し、必要に応じて補修、洗浄、消毒を行うとともに、飲水に適した水の確保や家畜の健康観察を徹底し、伝染性病害の発生予防に努める。

